

2009年5月22日

神戸大学医学部附属病院における新型インフルエンザ(A/H1N1)の対応経過と現状

神戸大学医学部附属病院 感染制御部長  
荒川 創一

1. 神戸市で2009年5月16日(土)に神戸市内で国内初かつ複数の新型インフルエンザ(A/H1N1)患者の発生が確認された。
2. この報を受け、神戸大学では、緊急的に5月16日(土)10時30分から、事務局本部(六甲台)にて、第3回神戸大学新型インフルエンザ対策本部会議を開催し、5月22日までの休講措置をとった。
3. 5月16日(土)12時30分から、神戸大学医学部附属病院において新型インフルエンザ対策本部を立ち上げ、病院出入り口を正面玄関のみとし、病院の建物に入るすべての者(職員、患者、外部委託関連、搬入業者他)に対して体温測定、健康状態をチェックすることを決定した。(平日7:30~10:30は職員に対して時間限定で自己申告にて出入り可能とした。)  
また、院内の診療・治療医療従事者にサージカルマスクの着用と不要不急の面会者は原則中止とした。  
翌5月17日(日)も引き続き、委員会を開催し、トリアージ室での簡易発熱外来をオープンした。
4. 5月19日(火)には、本院に隣接する神緑会館(別棟)に発熱外来として転用開設した。  
体制：実務用医師3人、看護師3人、事務2~3人  
及び調整役として医師1~2名(小児科含む)、看護師1名  
診察室等：診察室3ブース、検査室1室、重症経過観察室1室、待合室2室  
診察時間：9時~17時 時間外については、救急対応(正面玄関トリアージ室使用)  
受診状況：5月19日(火) 7名  
5月20日(水) 18名  
5月21日(木) 46名(うち14歳以下21名)  
その他：発熱外来を開設にあたり、神戸市立中央市民病院(感染症指定医療機関)から特に小児(14才以下)の患者の外来受け入れについて要請があった。  
(神戸市立中央市民病院での確定症例は、その時点で全例軽症のみであった。)
5. 5月20日(水)神戸市の対応状況と蔓延しているウイルスと病態についてある程度解明されてきていることから、一部対策の変更と注意事項について、院内の各部署のキーパーソンとなる医療従事者へ広報した。

- 1) 基本的に季節性インフルエンザと同様の取り扱いとすること。
  - 2) 大学病院の立場・責務(救急部、母子センター等の高度医療)については、協力病院として、市民病院群(感染症指定医療機関)の後方支援すること。
  - 3) 二次感染の防止とサーベイランスのため下記の項目について再度周知徹底を行った。
    - ・ 職員の健康管理について
    - ・ 患者の対応について
    - ・ 面会について
    - ・ 抗インフルエンザ薬の予防投与について
6. 5月20日(水) 18時から20時、本院内会議室にて第2回神戸市新型インフルエンザ対策協力病院連絡会を開催し、神戸市保健所、2つの感染症指定病院及び協力病院(本院をはじめとする7病院)とで種々、今後の対策を協議した。
7. 5月21日(木) 神戸大学医学部附属病院としての方針について、記者会見で以下について発表。
  - ・ 新型インフルエンザ(A/H1N1)を季節性インフルエンザとほぼ同様の取り扱いとして、基本的には飛沫感染予防策と接触感染予防策とで対応する。重症例や飛沫の多い処置時にはN95マスクも考慮する。
  - ・ 入院が必要と考えられる症例には、軽症については一般病棟個室、重症例はICU個室対応とする。
  - ・ 今後は、発熱外来をさらに発展させた診療体制を敷き、恒久的に機能する呼吸器感染症外来(仮称)として運用することを公表。
8. 5月25日(月)以降も引き続き患者の出入り口は1か所に限定し、トリアージ方法は基本的に自己申告制に切り替え、掲示物や一定時間出入り口で呼びかけを行うことで患者や医療従事者の意識を保持することとした。5月27日(水)より発熱外来は既存の別棟の会館から正面玄関前のトリアージ室(プレハブ)を拡充させ、正式な呼吸器感染症外来施設が完成するまでの対応をしていく。

## 問題点

1. 新型インフルエンザ以外の発熱患者について  
新型インフルエンザ以外の発熱患者が早く処置が必要にもかかわらず、発熱ということだけで発熱外来で待たされることがあり、本来の医療体制と矛盾が生じることがある。
2. マンパワーについて
  - ・ 協力病院として、大学病院の機能を落とさずに平常の医療体制を敷いている中で、トリアージや発熱外来を続けていくためには、必要な人員(夜勤にかかわる医師、看護師、事務職等も含めて)が不足している。
  - ・ 上記の人員や業務内容や刻々と変化する状況に伴う調整作業については感染制御部が行っているが、事前に詰められていなかった部分も含め詳細をきめるにあたり予想以上の時間がかかり、専任者が4名いても土日も含め終日かかりき

りになっている。(神戸では過去に震災体験をしているが、パンデミック対策ではさらに組織の柔軟な現場対応が鍵となる。)

### 3. 備蓄内容について

サージカルマスクやアルコール擦式消毒薬については事前に2カ月分以上の確保をしていたが、海外渡航者への対応やマスコミ報道につられて、予想以上の使用があり、医療現場での供給が枯渇してきている。特に協力病院への補給もなく自施設のみでの努力にまかされている。

### 4. ハード面について

当院の場合、隣接する別棟の会館を発熱外来として転用したが、継続して運用するには病院の機能上限度がある。協力病院に対する支援がない状況で冬場にかけてこの現状が少なからず続くなれば、対応に限界がある。早急に恒久的に機能する呼吸器感染症外来(仮称)開設への支援が必要。

付記：5月22日の神戸大学の決定として、5月23日(土)より神戸大学学部学生・大学院生の授業についてはこれを再開する、学外における授業についても同様とすることとなった。

以上。